

2月の安全運転のポイント 平成29年2月号

「交通の教則」の「危険な場所などでの運転」では、踏切や坂道、カーブが取り上げられています。それらはいずれも大きな事故が発生する可能性が高い場所です。そこで今回は、踏切、坂道、カーブに同じく危険な要素の多いトンネルを加えて、そのような場所を走行する際の注意点をまとめてみました。



踏切通過時の注意点

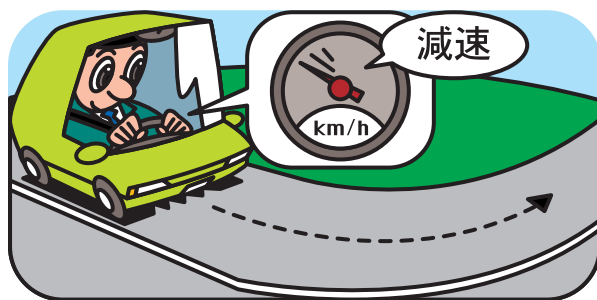
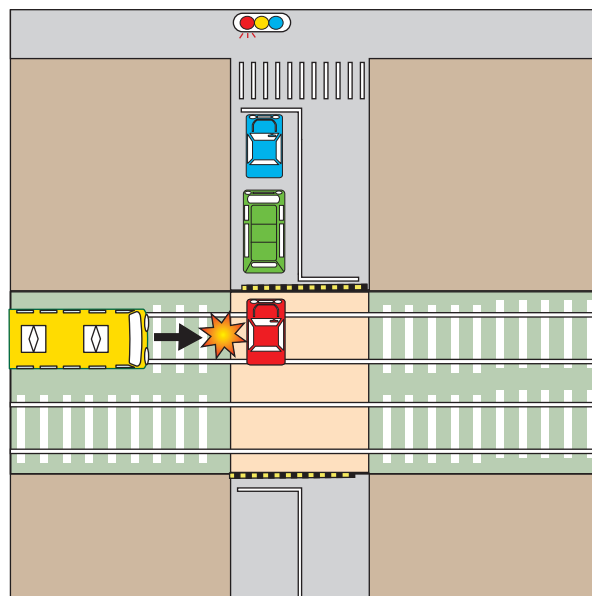
踏切を通過しようとするときは、停止線がある場合はその直前、停止線がない場合は踏切の直前で必ず一時停止し、窓を開けるなどして自分の目と耳で踏切の左右の安全確認をします。前車に続いて踏切を通過する場合でも、一時停止して安全確認をする必要があります。

警報機が鳴り始めたときや遮断機が降り始めたり、降りているときは、踏切に進入してはいけません。

踏切を通過するときは、落輪しないようやや中央寄りを走行しましょう。

踏切の先の道路が渋滞などにより混雑しているときに踏切に進入すると、踏切内で立往生し動きがとれなくなるおそれがあり、大変危険です（図1）。踏切に進入するときは、前方の道路状況をよく確認し、自車の入れる余地がない場合には、踏切の手前で停止して、自車の入れる余地ができるまで待たなければなりません。

図1



カーブ走行時の注意点

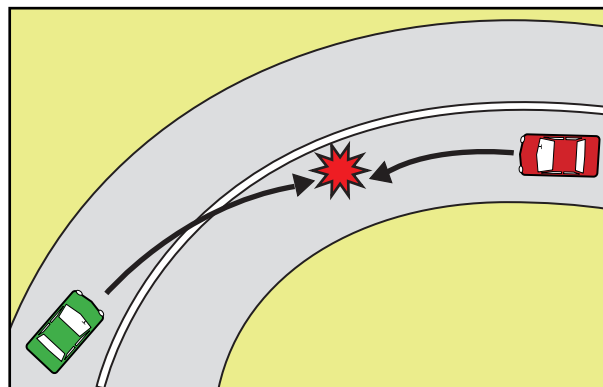
カーブにさしかかったときは、カーブの状況に応じて手前で十分に減速します。また、前車があるときは、カーブ手前での減速などを予測して、車間距離を十分に確保しておきましょう。

右カーブでは、気づかないうちにハンドルを切り過ぎてセンターラインをはみ出すことがあり、対向車と正面衝突する危険があります（図2）。センターラインをしっかりと確認しながら走行しましょう。

左カーブで内側に寄り過ぎると、見通しの悪い場所ではカーブの先の停止車両や落下物などに気づくのが遅れる危険があります。やや中央寄りを走行して、前方の状況を早めに察知するようにしましょう。

カーブでのハンドルとブレーキの同時操作はスリップの原因となりますから避けましょう。

図2





坂道走行時の注意点

下り坂では加速度がつくため停止距離も長くなりますから、前車との車間距離を十分にとって、前車の急な減速や停止にも対応できるようにしておきましょう。

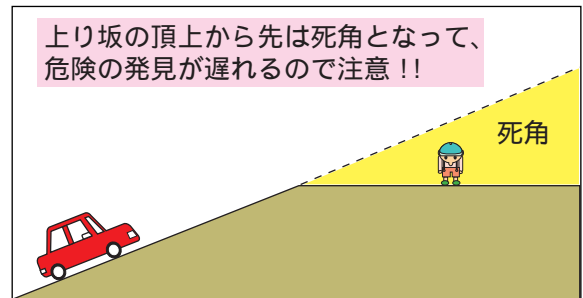
長い下り坂でフットブレーキを使いすぎると、ブレーキが効かなくなることがあります。低速ギアにしてエンジンプレーキを活用し、フットブレーキは必要最低限の使用にとどめましょう。

上り坂の頂上付近はその先が死角となるため、対向車や横断歩行者などの発見が遅れます（図3）。車線を守って走行するとともに、坂道の頂上付近に近づいたら、必ず徐行して、坂の先の状況に対応できる状態で進行しましょう。

狭い坂道で対向車とすれ違う場合は、下りの車が停止して上りの車に道を譲りましょう。ただし、上りの車の近くに待避所がある場合は、上りの車でも待避所に入って下りの車の通過を待ちましょう。



図3



トンネル走行時の注意点

トンネルに進入した直後は暗さに目が慣れず、周囲がよく見えなくなりますから、トンネルに入る手前で速度を落とすと同時に、前車との車間距離を長めにとっておきましょう。

入口に信号機や情報板の設置してあるトンネルでは、トンネルに入る前に必ずそれらを確認し、赤信号のときや「進入禁止」が表示されているときは、絶対に入らないようにします。

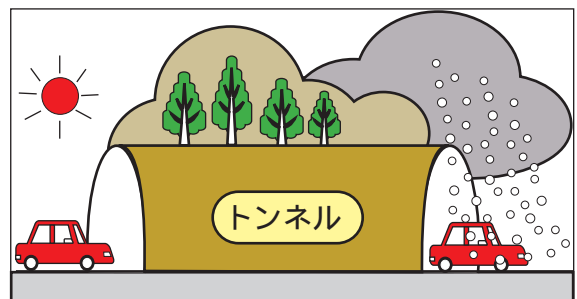
トンネル内は暗いため、前車の速度や車間距離などがつかみにくくなります。照明設備がある場合でも、必ずヘッドライトを点灯して視界を確保しましょう。

トンネル内は圧迫感があるため不安や焦りの気持ちから運転ミスも生じやすくなります。車両通行帯があり追越しができる場合でも、できるだけ追越しは避けるようにしましょう。

トンネルを出たときに強い横風を受け、ハンドルをとられることがあります。このようなとき、あわてて急ハンドルを切るとスリップする危険がありますから、トンネルを出るときは、車をコントロールできるようしっかりハンドルを握っておきましょう。また、トンネルの入口と出口では天候が変わっていることがありますから（図4）、出口に近づいたときには、天候にも注意しましょう。



図4



「ご相談・お申込先」